

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人兼誠福祉会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	〒662-0941 兵庫県西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	平成27年9月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成28年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の尊厳と自由を尊重し、個人個人のニーズに沿った質の高い援助を提供します。利用者の皆様がゆとりのある空間の中で「我が家」と感じて頂き、楽しく過ごしていただける環境作りを行います。また適切なアセスメントに基づき、何ができるのかを見極めた自立支援を提供いたします。</p>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームメヌエットは、西宮市南部の酒蔵通りに面した、特養・デイサービスと併設された2ユニットの施設である。近くに毎年1月10日の恵比寿さんの年男競争がテレビニュースとなる西宮神社や開校百年を超える小学校などがある静かな落ち着いた文教地域の中にある。恵まれた環境の立地の良さ、積極的な利用者家族の取り組み、協力的な地域の民生委員の存在などが有効に機能し、地域と事業所の関係は強固になってきた。課題は、優秀な職員の確保と定着である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活者様にゆとりのある時間の中で「我が家」と感じて頂き、楽しく過ごして頂ける環境作りを行っています。この理念を管理者・職員ともに共有し日々実践しています。	私たちは生活者様がゆとりのある時間の枠の中で「我が家」と感じて頂き、楽しく過ごして頂ける様環境作りをサポートいたしますを、理念とし玄関に掲示し日々・ユニット会議等で確認し介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設を目指してイベントなどレクリエーションを通じて地域住民との交流を行っている。また、地域の行事にも参加させていただいている。	四宮神社、酒蔵、小字校・中学校等いずれも歴史のある建物が林立する好環境の中にある施設の強みを生かし、民生委員の積極的協力を得て、地域の行事やメヌエット祭り・コンサートなどに地域住民と利用者・家族がともにたのしんだ。	地域との良好な関係を更に継続発展させることが、津波避難ビルの指定を受けている事業所としても重要なことであることを自覚されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や申し込みに来られる方や電話での相談に状況を伺い介護についてのアドバイスを行っている。人手不足もあり、認知症教室を今年度は開催できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催。行政、地域住民代表、知見を有する者、家族代表の方々に出席いただき、運営状況等を報告して意見等を伺いサービス向上につなげている。	昨年度は2ヶ月に1度開催し(月の第1月曜日)家族の代表・地域包括支援センター・民生委員・知見を有する方・管理者・ケアマネ等が参加し、事業所の状況、参加者よりは色々な情報を頂き運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	乗回指導、監査の実地指導等を通して適切な運営を行えるように指導等を受けている。加算等申請書類についても担当者に連絡を取り作成を行っている。昨年度の6年の指定更新の際もヒアリングで書類や実地で指導をいただいた。	市の法人指導課・福祉の町作り課・高齢福祉課・介護保険課等と相談し指導を頂き、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修にも参加して周知徹底を図っている。やむを得ない事例についてはマニュアルにのっとり説明や文書手続きを行うとともに、解除に向けて取り組み、1ヶ月ごとに確認し3か月ごとに評価している。	身体拘束には職員全員主旨を十分に理解し、介護に当たっている。事業所内ではマニュアルに基づき研修し理解し、具体例により理解を深めている。職員同士もお互いに注意し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にも参加して周知徹底を図っている。日々の引き継ぎだけではなく、定期的な会議やケアプランの担当者会議の際にも入居者の状態把握に努めている。法人として虐待の実態調査も実施した。	虐待防止に関しては、マニュアルに基づき事業所内の研修を行い職員は主旨を十分に理解している。法人として虐待防止の実態調査もし介護に活かす様に支援している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に参加したり閲覧できる資料で学ぶ機会を確保している。成年後見人がついておられる入居者があり、その方の相談等の事例からも制度の理解を深めている。	権利擁護に関しては、事業所内研修をし理解する様に努めている。現在1人利用者がおり相談に応じられる体制は整っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改正時、解約時は個別に説明を行い、入居者、家族が理解し納得されるように説明を行っている。また、入居後に質問等があった場合も、個別に十分な説明を行っている。	入所時に重要事項説明書・契約書に基づき、利用者・家族へ十分説明し納得を頂きサインを頂いている。又保険改正時・介護度変更時・にも十分説明し納得頂きサインを頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が現在中断しており運営推進会議の際に家族代表から意見等を窺っている。また、面会時やメール・電話にても連絡や相談等を行っている。対応可能な内容については反映させるよう努めている。	家族の来訪は多く、機会あるごとに家族の意見を聴取し、運営に生かすよう努めているが、職員の入れ替わりが多いのが、利用者・家族と事業所双方の共通の悩みとなっている。	慣れた職員が定着することは、利用者や家族に安心感を与え職員の働き甲斐の向上につながり、結果として事業所の評価が高まることにつながる。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、人事考課、法人全体の会議において、職員の意見等を把握して運営に反映できるよう努力している。	管理者・職員間は風とうしも良く会議に於いても活発に意見を出し合い運営に活かしている。	代表者や管理者は、良い人材を確保し、育て定着する職員になってもらうかは、前項で指摘したように極めて重要です。全力を挙げられることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、人事考課の活用、各委員会からの提言等を検討して繁栄できるように努めている。特に運営効率化委員会の取り組みにより運営等の改善を図り職員への還元も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得への支援、教育委員会からの外部研修の情報提供、研修参加の予算化、月1回の内部研修等を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修・他施設からの研修受け入れによる相互理解、グループホーム連絡会への参加による同業者との意見交換等を実施。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により現在のご本人の状態、要望等を把握してケアプランを作成。面談時は目と目を合わせてにこやかな表情でご本人の言葉を待ってゆっくりとお話をさせていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談により現在のご家族の要望等を把握してケアプランを作成。なるべく本音でお話いただけるよう、共感しながら聴かせていただく。また、協力しながらご本人の生活を支えていくことをご理解いただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み段階、事前面談段階において、入居されるまでの間を安心して過ごして頂けるよう、現在の状況を確認し、必要と感じる内容についてはアドバイス等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動指針の「生活者様と職員が共に生活という意識を持って心のかもったケアを提供します」を実践している。節度を持って日々ふれあい、できることを大切に暮らしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族・施設、この三者が手を取り合っご本人のこれからの生活を形作るということを入居段階にてお伝えしている。また、こまめにご家族と連絡を取り、信頼関係の構築にも努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、手紙・電話・面会・外出等の支援を行っている。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して従来の生活の継続性を確保した支援に取り組んでいる。親しい知人・友人の訪問や馴染みのスーパー・喫茶店・ケーキ屋・美容室・墓参り等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おひとりおひとりの性格や行動パターンなどをしっかり把握したうえで、共に楽しく過ごせる関係作りを支援している。手助けが必要な場合、見守る場合の見極めをきちんと行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や移動先の施設へ面会に出かけてご様子を伺ったり、相談があれば可能な支援を行っている。退居家族が音楽ボランティアで訪問を続けてくださったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で職員がお話する時間を大切にしておひとりおひとりの思いを把握し、職員間で情報共有してケアに反映させていくよう努めている。	フェースシートにて生活歴・家族の希望・個人記録・日々の関わり・利用者の言動や家族よりの情報を収集して、利用者の希望・意向を把握している。把握しづらい面は利用者に自己決定を促す対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談では把握しきれていないことがないか、常にご家族と連絡を取り情報確認し、ケアに反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事、生活上の動作、レクリエーション、コミュニケーション等、あらゆる機会を通して現状把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	経過観察・評価を行いながら、原則半年ごとに見直し、カンファレンスを行っている。状態の変化の有無に関わらず、ご本人、ご家族、関係職員の意見をもとに楽しく過ごしていただける環境作りに努めている。	フェースシート・診断書・個人ファイル・本人・家族・職員等より個別ケア情報を収集し介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い計画見直しは半年毎に又体調変化や介護度・保険制度等変更にはその都度対応しサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン、評価の確認、1日3回の引き継ぎ時に様子観察の内容・変化の状況を報告し記録している。その時々状態に応じて介護・介助を工夫し、ケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とするが、ご本人、ご家族との話し合いによって、可能な対応を行っている。地域の社会資源の活用、地域行事への参加による交流、ボランティア導入等もやっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・外食・見学等、地域の豊富な社会資源を活用して生活の支援を行っている。ご案内いただいた地域の催し物にも参加させていただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則往診で対応していただいている。通院についてはご家族対応を原則としている。眼科、歯科、皮膚科、整形外科、心療内科も往診で対応している。24時間対応の医師をご希望の場合も関わっていただいている医師に依頼している。	かかりつけ医は入所時に本人・家族と長く相談し決定している。現在従来が13名施設協力医が4名で協力医の往診は月2回歯科は希望があれば週1回の往診を受けている。家族の協力を得ながら特殊な科へも受け安心な体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師が毎日フロア内を朝・夕にラウンドして状態観察、健康管理するとともに急変対応もしている。夜間のオンコール体制も敷いて、必要な対応を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、ご本人の状態把握のためにこまめに訪問したり、病院の医療連携室等との連絡も行っている。医療連携室からのグループホームへの問い合わせも電話対応だけではなく、見学も受け入れて理解を深めていただいている。	入院時には施設での情報を病院の医療連携室に提供し、連絡を密にしている。入院中も訪問し情報を把握している。又病院よりも施設に来て頂き、情報の共有に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応、看取りの方針を説明して署名捺印をいただくとともに、現時点での終末期の意向確認も書面にて行っている。緊急時の対応についても意向を書面にて確認している。	重度化や終末期のあり方については入所時に本人・家族に十分話し合い、指針書に基づき署名・捺印を頂いている。看取りの経験も6名あり体制も整っている。身体状況が変化した時には、書面にて確認しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けていない職員については、法人の施設内研修等を利用して急変対応できるように取り組んでいる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練において避難誘導、消火訓練等を実施。津波避難ビルの指定も受けており、地域等との合同訓練も行ったことあり。	年2回の消防訓練の他、津波避難ビルの指定を受けたことから、津波災害時の対応について、利用者と地域住民との関わりをどう整理するかが課題となっている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由と尊厳を尊重するという行動指針に基づき、日々の声かけや対応に気を配り、ひとりの人間として節度を持って向き合っている。	接遇マニュアルにより研修を行っている。利用者を人生の先輩と考え、尊厳とプライバシーを損なわなきように、行動指針に基づき介護に努めている。プライバシーに関してはキーのかかるロッカーに厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりと向き合い、ご本人の言葉を待つという姿勢を大事にしている。職員の考えを押し付けず、答えを急いで求めず、自らどうするのかを決められるように声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食の時間もその方のペースに合わせており、1日の始まりにその日の予定をご本人にお聞きして、その方の動きに合わせて支援を行うことを大切にしている。そのため、職員の休憩時間も柔軟に変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出して化粧品等を購入したり、馴染みの美容室利用の希望を支援したりしている。朝・夕の更衣、入浴時の更衣もご本人の意思を尊重して支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の取り分け、配膳、片付け、お米とぎ、汁物作り等を一緒に行っている。施設から提供されるメニュー以外に副食1品を作ったり、おやつ作りをしたり、材料の買い出しや食事を作ることをテーマにした食事レクも行っている。	「食」は健康寿命の源と捉え注力している。メニューは業者の栄養管理者が、食材も同業者がグループの特養と連携し調理して配達される。食事は職員と一緒にしている。検食も職員がし給食委員会で業者と話し合いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックし、その方の状態に応じて摂取方法等も変更している。体重測定、採血結果などをもとにして、往診時に医師に指示等を受けたりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療と連携して口腔ケアを行っている。義歯、自歯の状態、舌苔の有無、口臭等を確認して必要な援助を行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して誘導や声かけを工夫している。夜間帯も出来る限りトイレ誘導を行っている。健康状態による理由がない限り、定時のおむつ交換という形にならないようにしている。	排泄チェック表より個人別の排泄パターンを把握し、時間少し前にそれとなく声かけしトイレへと誘導している。現在自立者は8名布パンツの方も9名、あくまで利用者の自立を目指した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取に気を配り、ヨーグルトなどご本人に合った物でも対応して、なるべく便秘薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排泄失敗による臨時の対応を除き、ご本人の意向を尊重するようにしている。大浴場へ他の方と連れ立って行かれることや夜間入浴にも安全配慮しつつ取り組むよう努めている。マンツーマンで個浴槽での対応が基本。	週2回を基本としているが希望に合わせて柔軟に対応している。入浴時間は午後を基本としている。1階には大浴場と機械湯があり大浴場には連れ立って行かれる方もいる。拒否の方には清拭・足浴・シャワー浴・時間を変えリラックスして入浴出来る様に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はご本人のその日の様子を確認しながら声をかけている。日中もその日の状態に応じて必要な場合は休んでいただけるよう声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容等を把握し主治医への連絡・相談等の連携も随時行っている。往診時に職員が立ち会い情報提供・質問等を行い理解に努めている。処方薬変更時は特に状態観察をこまめに行い、主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味を生かした楽しみを提供したり、嗜好品の購入をはじめとして外出機会を出来る限り増やす努力をしている。現在の残存能力に応じて家事等も分担して行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や気分転換を兼ねての外出に職員が同行している。ご家族が同行できる場合にはご協力もいただいている。地域の催し物への参加も積極的に行っている。	当日の気候・体調に合わせて外出している。外出には職員の同行、家族の協力を得て対応している。日常はスーパー・喫茶店・ケーキ屋・西宮神社・施設の屋上・中庭へ遠出は水族館・甲山・花見等積極的に行い外気に触れ季節感を味わっている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や飲食を伴う外出時に、お金の理解が難しい方を除き、ご本人が支払いを行うように援助している。ご家族が了承され定期的に確認していただきながら、小遣い程度の現金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	切手等の購入の付き添いや必要に応じて代筆も行っている。電話をかける場合も、その方の能力に応じて対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMやテレビの音量の調整、空調温度も季節やその日により設定温度を考慮、ゆったりあるけるよう通路に不要な物を置かない、落ち着いた色合いの家具、季節を感じる作品等の展示、清潔管理等、安全かつ安心して過ごせる配慮を行っている。	居間兼食堂は広く・明るく・清潔で空調もその日の天候により調整している。壁には利用者が作られたカレンダー・刺繍・貼り絵・イベントの写真が季節感を醸し出し、リラックス出来る様配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごしていただけるよう、テーブルやソファの配置を工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居後も自宅の馴染みの物を家具も含めて持ち込んでいただき、思い出の品や写真を飾り、ご本人が落ち着き居心地のよい空間となるよう、ご家族の協力を得ながら工夫している。	居室は施設のベット・ダンス・エアコン・ナースコール・スプリンクラーが設置され自宅よりは使い慣れた家具類・仏壇・家族の写真等が持ち込まれ居心地よい場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこに何があるのかがわかるように、また安全に移動や使用ができるように配置やセッティングを工夫し、それぞれの能力に応じて生活できるよう声かけも工夫している。		

基本情報

事業所番号	2890900109
法人名	社会福祉法人兼誠福社会
事業所名	グループホームメヌエット
所在地	西宮市浜脇町4-33 電話 0798-38-2201

【情報提供票より】平成 27年 12月 25日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11人 非常勤 5人 常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート創り階建ての5階部分
------	--------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	116,000 円	その他の経費(日額)	水道光熱費1日900円
敷金	無し		教養娯楽費実費
保証金の有無 (入居一時金含む)	600,000円	有りの場合 償却の有無	有(3年)
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(8月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷向病院、西宮回生病院、ヒカリデンタルクリニック
---------	--------------------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	職員の入れ替わりが多く、利用者及び家族に安心感を与えられているとは言い難い状況にある。	職員が働き甲斐を感じられるように、職場の環境整備を図っていく。	・適正な人員の配置 ・業務内容の見直し ・個別ケアの充実 ・公平なりフレッシュ休暇の推進	12ヶ月
2	2	地域との関係をさらに発展させていく必要がある。	津波避難ビルの指定を受けており、地域との結びつきをより深めていくとともに、利用者の生活を豊かにしていくためにも地域との関係を良好に保っていく。	・地域行事への参加 ・地域への施設機能の提供(認知症教室の開催、地域の会合へ出前での勉強会等) ・近隣の保育所・小学校・中学校との関係作り ・地域の防災訓練への参加	12ヶ月
3	11	よい人材を確保し、育てて定着させていく必要がある。	職員との意見交換により課題、問題点を常に的確に把握していく。	・定期的な個別面談の実施 ・新入職者へのオリエンテーションの見直し ・研修計画の見直し	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(評価結果を職員に公開して話し合いを行った。評価結果等は西宮市に提出予定。)
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()